

浜岡3号炉

饅首産で有名な浜松の東方四〇キロの地点、御前崎に至る遠州灘に面した海岸に、中部電力の原発群がある。浜岡1号炉（五万キロワット）、2号炉（八四〇万キロワット）、3号炉（一一〇万キロワット）である。この辺り一帯はかなり前から、東海大地震の危機が叫ばれているところで、原発の耐震設計が十分なものであるかどうか、最も気にかかる点である。ここでは最大出力の3号炉の事故を考える。

急性死圏と急性死者数を①に示してあるが、東海2号炉の場合に比べて、人口密集地はそれほど多くはない。

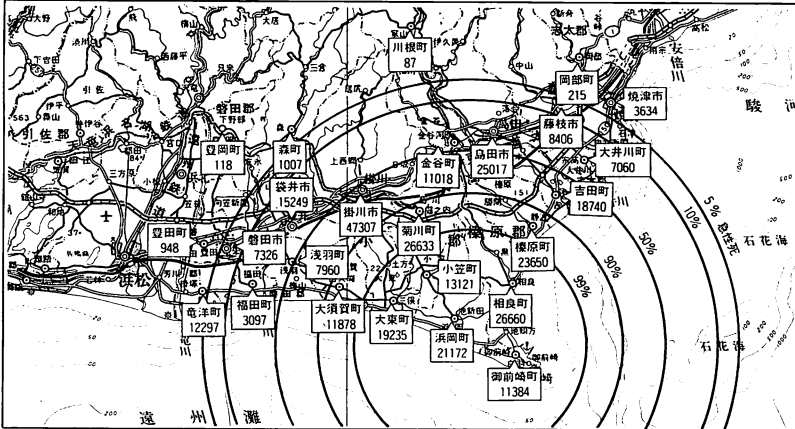
人口密集地が多くないとはいえず、一万人以上の急性死者が出るのはそれほど少なくはない。〇度の方向の金谷村、一五度の方向の島田市、三〇度の方向の榛原町と吉田町、四五度の方向の相良町、一〇五度の方向の御前崎町、二八五度の方向の竜洋町、三〇〇度の方向の大東町、大須賀町、袋井市、三一五度の方向の浜岡町、三三〇度の方向の小笠町、掛川市、三四五度の方向の菊川町などかなりの数に上る。

首都圏、近畿圏および名古屋からの避難が必要

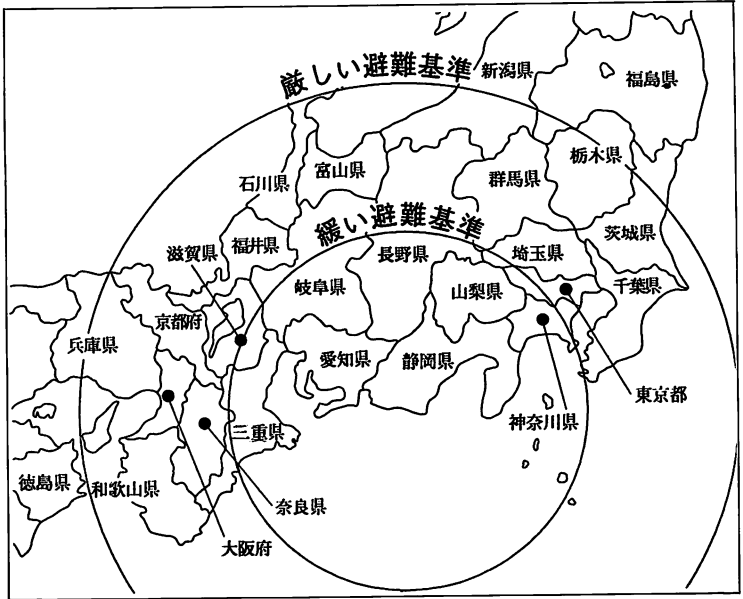
ガン死についての分布を②に見てみると、北東方向に最大のピークがあり、西から北西にかけてその半分くらいのピークがあるのがわかる。四五度方向の最大のピークの死者数は四三三万人を数え、この大部分はもちろん首都圏で発生する。二七〇度と三〇〇度の方向については、それぞれ近畿圏と名古屋近辺に分布の極大が見られる。

避難基準の境界については③、緩い避難基準を採用した場合でも東は東京、西は名古屋までが避難の対象区域となり、厳しい基準を採用しようものなら、東は水戸、北は能登半島、西は姫路まで、本州中央部の全域が対象区域になり得るのである。

図①



図③



図②

